

令和3年度第4回江東区外部評価委員会

1 日 時 令和3年8月19日(木)
午前10時30分 開会 午前11時32分 閉会

2 場 所 オンライン開催
〔事務局設置場所：庁舎7階 73会議室〕

3 出席者

(1) 委 員

吉 武 博 通	竹之内 一 幸
中 山 由 紀	今 村 保 雄
河 野 博 子	河 上 牧 子

(2) 事務局

区 長	山 崎 孝 明
副 区 長	押 田 文 子
副 区 長	大 塚 善 彦
政策経営部長	長 尾 潔
政策経営部企画課長	油 井 教 子
政策経営部財政課長	保 谷 俊 幸

4 傍聴者数 なし

5 会議次第

1. 開会
2. 議題
(1) 令和3年度外部評価結果報告書(案)について
3. その他
4. 閉会

5 配付資料

次第

配席図

- ・資料1 令和3年度外部評価結果報告書（案）について

午前10時30分 開会

○委員長 それでは、定刻になりましたので、第4回の外部評価委員会を開会したいと思います。本日は傍聴者の方はいらっしゃらないということでございます。委員の皆様には、御多忙の中、御出席いただきまして、ありがとうございます。また、今日は大変御多忙な中、山崎区長に冒頭おいでいただきましたことを心から感謝を申し上げたいと思います。それでは、山崎区長、冒頭に御挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○区長 先生方、どうもありがとうございます。お暑い中、また、コロナの中、また、オリンピックだ、パラリンピックだ、世の中が騒然としている中で、江東区の外部評価委員として大変なお力添えを賜りまして、本当にありがとうございます。

この外部評価ですけど、私が区長になったのは平成19年で、そのときに、新しい基本構想をつくりました。「みんなでつくる」という言葉を基本構想に入れて、みんなで一緒になって、区民の皆さんも行政も一体となっていい区をつくろうよというような思いで、「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」というキャッチフレーズをつくったわけでございます。そのときの最初の長期計画を策定した際に、区民の視点に立った行政評価をするべきだということで、平成22年度から外部評価を始めました。

外部評価は、行政の客観性や透明性を高めるとともに、社会環境を捉えた政策展開を図る上で大変重要な役割を果たしております。今年度の外部評価においても、新型コロナウイルスの影響で、オンラインによるこのような形での開催となったものの、全8施策について、先生方の専門的な見地から、忌憚のない、また有益な御意見、御提言をいただいたと担当課長より聞いております。

新型コロナウイルス感染症の対応が日々続いております。江東区も、御存じのように、今大変な人数で、かつて4月、5月頃は20人で大騒ぎをしていたんですが、今、何と200人を超してしまうような日も出てきておまして、特に最近は、やっぱり家庭内感染が広がっていて、保育園、保育士さん、あるいは学校の子供たちに感染が広がってきているということで大変心配をしております。

その一方で、地下鉄8号線の延伸については、先だって、国土交通省の審議会でも私が願っていたような答申が出まして、東京都に対しても、来年度予算をそこに組み込むように強く要望しております。また、オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承をどうするか、これをやはりしっかりとしたもの継承していかなければいけない、江東区な

りの考えを示していきます。

また、脱炭素社会の実現、これについては、ゼロカーボンシティの宣言をいたしました
が、これから地球環境のためにも、もっともって江東区が先頭に立って頑張っていかな
ければいけないとも考えております。ここ数年の間では、大きなことは、江東区の重要課題
でありました中央防波堤の埋立地の帰属問題が、大田区との長年の争いがあったわけ
ですが、おおよそ8対2で決着しました。この決断をするのが果たして後々どうなのか、先生
方のような専門的なお立場の方々から見て、これは一体外部評価から見た場合にどう評価
されるのかなと私自身はいろいろ心配をしています。しかしながら、いつまで争っても切
りがないことで、将来のためにはどっかで決着しなきゃならん、江東区は100%江東区のも
のだと言っていますが、大田区も100%だと言っている。こんな状態が続いたのでは、果た
して将来の東京の発展や江東区の発展につながるんだろうか、思い切って8対2で妥協し
たわけでございます。この点を、また後々、先生方のお考えを、私はこの外部評価とは別
に、お考えがあればお聞かせいただきたいと思います。このため、今後と
も先生方にもぜひ、次年度においても、引き続き外部評価委員としてのお力添えを賜っ
ていきたいと思っております。

先生方のいろんな厳しい御指摘をいただくことが我々にとっての励みにもなりますし、
前進にもなりますので、どうぞ遠慮なく、びしびし、ばしばしと御発言いただければあり
がたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

○委員長 区長、大変お忙しい中、わざわざお時間をいただきまして、また、御挨拶もい
ただいた中で、区の今の状況もよく分かりましたし、私見を言っはいけないのかもしれ
ませんが、8対2で決断されたこと、私はすごく敬意を表しております。また、評
価委員会で議論する機会があれば議論させていただきたいと思っておりますけれども、今、大変
御苦勞されていること、よく分かりましたし、江東区がいい方向に動いていくと私たちは
信じておりますので、引き続き頑張っただければと思います。今日はありがとうございました。

区長は、これから御公務ということでございますので、ここまでと伺っております。ど
うもありがとうございました。

○区長 ありがとうございました。よろしく願いいたします。

(区長退席)

○委員長　それでは、お手元の資料の確認をお願いしたいと思います。事務局より事前送付されております会議次第に配付資料の記載がございます。お手元にそろっているかどうか御確認いただきたいと存じます。よろしいでしょうか。

それでは、議題の1つ目でございますけれども、「令和3年度外部評価結果報告書（案）について」ということでございます。この外部評価結果報告書（案）ですが、第1回の外部評価委員会で各委員に御了承いただきました外部評価委員会の運営についてにおいて、正副委員長で評価（案）を作成の上、各委員に提出するとなっておりますことから、委員の皆様方から御提出いただきました外部評価シートに基づきまして、委員長の私と竹之内副委員長で調整の上、取りまとめております。報告書（案）につきましても、既に皆様にも御覧いただいているところではございますけれども、改めまして事務局から御説明をいただきたいと思っております。事務局、よろしく申し上げます。

○事務局　それでは、説明してまいります。説明する前に、本日は最後の委員会でございますので、本区の両副区長が出席をさせていただいております。押田副区長と大塚副区長でございます。また、後ほど感想を述べさせていただきますので、よろしく御願いいたします。それでは、私から、外部評価結果報告書（案）について御説明させていただきます。

まず、表紙をおめくりいただきますと、「令和3年度外部評価について」ということで、吉武委員長の文章を掲載しておりますけれども、この部分については、主に委員長にお書きいただいております。主な点について申し上げます。

まず、4段落目ですけれども、評価を通じて施策の実効性を高めていくためには、外部評価委員、外部評価モニター、主管・関係部課の三者がそれぞれ役割を果たしながら、施策の目的・成果等を多面的に分析し、確認することが大切であること。

また、6段落目ですけれども、外部評価を含む行政評価は、誰のために何を行うべきかを区民に分かりやすく説明し、長期計画の着実な推進、確実な区政運営の実現を図ることを目的としていること。

そして、8段目では、今後とも行政評価制度を適切に機能させ、限られた財源を有効に活用しつつ、行政課題に的確かつ迅速に対応してほしいとまとめていただいております。

外部評価委員会について、2ページおめくりください。目次の次です。2ページ以降で、外部評価委員会の概要についてまとめてございます。こちらは、第1回の委員会でお示した資料などを基に作成しておりますので、後ほど御確認をしていただければと存じます。

次に、5ページの総評に行きたいと思います。この部分につきましても、主に吉武委員長にお書きいただいております。大きく、まず6ページ、(1)「施策別評価の総括」、7ページ、(2)「計画推進に向けた課題」、8ページ、(3)「実効性ある評価に向けて」の3点にまとめていただいております。

まず、6ページの「施策別評価の総括」、(1)ですけれども、1行目にありますように、「S、A、B、Cの評定だけで計画の実施状況を評価を総括することは難しいが、敢えて評定のみを整理すると次の通りとなる」として、全てA評価以上になっているもの、B以下が過半となったもの、A以上が過半を占めているが各委員の視点によりC評価の項目があるものの3つの区分に分析していただいております。また、各委員の評価の理由で、特に多かった意見からは、中段に白丸が3つあると思うんですけれども、「区民の行動変容につなげるための具体的な戦略づくりの必要性」、2つ目の丸、「一層の内部連携や地域協働、先進事例研究を通じた社会変化への対応」、3つ目、「施策における長期計画推進の視点の具体化（特にICTの積極的活用）」の3つに整理していただいております。

さらに、外部評価モニターの御意見、質問には、施策に対する区民の期待や、区の取組への理解度など重要な気づきを与えるものが含まれており、委員の評価の際に参考としていただいております、外部評価モニターの皆様への謝意が示されております。

次に、7ページ、(2)の「計画推進に向けた課題」についてですけれども、まず、①、「社会状況変化と区民ニーズの的確な把握」については、デジタル技術の急速な発展と新型コロナウイルス感染症の流行といった施策を取り巻く変化について、施策を着実に実施することで区民の期待に応えながら、より柔軟かつ的確に区民ニーズに対応すること、また、区民の関心が高まっている施策について、長期的かつ幅広い視野で、区が何をなすべきかを確認し、区民の意識の共有化を図りながら施策を推進することと御意見をいただいております。

次に、②の「施策展開の構造化と戦略づくり」では、施策が目指す姿と指標の動向、それに対する評価、取組の相互関係や戦略性に曖昧さを感じる事例が見受けられたことから、施策の推進に当たり、施策の構造化と施策展開の戦略性を意識することが重要であるとの意見をいただいております。

次に、③「施策の具体化と区民へのわかりやすい説明」では、区民への周知にあたり、分かりやすい発信内容の検討、一方的な発信にとどまらない双方向のコミュニケーション手法やICTの積極的活用を検討することの御指摘をいただいております。

次に、④「代替指標や統計情報による多面的評価の検討」では、単一指標による評価は脆弱性を抱えており、今後、代替指標や統計情報の検討・整理がなされ、施策評価シートへ明記するなどの対応を期待すると御意見をいただいております。

最後に、8ページになります。「実効性ある評価に向けて」では、行政需要に的確に対応するためには、誰に対して具体的に何をなすべきか、何を最終的な成果とするかといった考え方を組織・職員間で共有することが重要であるとしております。

その上で、最後にありますように、評価を通して、区政運営のさらなる高度化に結びつけることを期待するとまとめていただいております。

以上が総評となっております。私からの報告は以上です。

○委員長 どうもありがとうございました。それ以外の内部のところは、特に御説明されることはないということよろしいでしょうか。

○事務局 はい、お願いします。

○委員長 委員の先生方におかれましては、もう既に目を通していただいていると思いますが、少しだけコメントしておきますと、総評のところにしても、最初の私の文面も、実は事務局がかなりクオリティーの高い案をつくっていただきました。それを竹之内先生が丁寧に見ていただきまして、最終的に私のほうで手を加えさせていただきました。最初に事務局から出てきた原案のクオリティーが本当によくなっているなということでございます。それから、私がいろんな場で、前回のときも構造化ということをすごく申し上げて、単なる報告を書いて、そして数値目標を出して、それが達成したかどうかという平板なことではまずいんだと。常にいろんな問題を構造的に考えていく、そして、戦略的な発想で取り組んでいくことが大事で、報告があつて数値があつて、そこを平板に単純に結びつけて書くという、それだけじゃうまくいかないのではないかという話をしておりました。今回、そういったことも事務局の皆さんが十分踏まえていただいて案をつくっていただいたので、私や竹之内先生のほうで手を入れる部分は非常に少なかったということをここで申し上げておきたいと思っております。

あと、個別の項目の中で、施策評価の中で、例えば全ての項目について、一つ一つの項目を見ていくと、全員がAというところもあるし、3人の中で1人はSをつけて1人はAをつけて1人はBという、こういうふうに分かれる場合がございます。これは、国のいろんな施策とかの評価をしていて感じるんですが、極端に言えば、ある人がSをつけたのに、ある人はBとかCをつけるというケースが結構あります。私は、それもとても大

事なことだと思っけていまして、みんながそろろうこと自体が異常だと思っけてもいいのかなと思っけていますので、みんながそろえば、みんなが大体こういう見方をしてくれただんだと思っけてばいいし、それぞれ見方が違うということは、1つの施策に対する取組に対して、やっぱりこういうところは評価しよう、でも、ここはおかしいよねという、そういう印象を、委員が評価するところを高く評価して、でも、ここは問題だよねという指摘もあるということですので、ぜひ区側におかれましては、みんながAをつけたとか、皆さんが同じようなところをつけた場合は、おおむねそういう見方なのかなと思っけていただきたいと思っけて、完全に評価が分かれたところは、そういう見方があるんだということ、その評価の評点のつけ方についても、それがいい悪いということではなくて、次の施策に生かしていただくとありがたいかなと思っけています。

補足が長くなりましたが、委員の先生方、全体を通しまして何なりと御意見をいただければと思っけています。いかがでございますでしょうか。後で一人ずつに最後、全体を通してのコメントをいただくことにはなっておりますけれども、全体のまとめについて、せっかくの機会ですので、いかがでございますでしょうか。

○委員 このたびはありがとうございました。資料を事前に頂きまして、特に総評のところは何遍も読み返しまして、全体を把握されて、また、個別のところについてもよく指摘をしていただいた良い文章だなど私は思っけていました。この部分については、以上のとおり申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員 いろいろとありがとうございました。私も報告書を読ませていただきましたけれども、特に申し上げることはございませぬ。総評のところ、外部評価モニターの方への謝意が触れられていると思っけてうんですけども、私もやっけていて、意見シートなんかも全部読みましたけれども、本当に皆さんが一人一人、自分の持った意見を出してきてくださって、私も評価する中で大変参考になりましたので、そこに触れさせていただいたことはすごくよかつたなどと思っけております。特に報告書に対してはありませぬ。

○委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員 今回初めて外部評価委員に加わらせていただきました。どういうまとめ方をするのかというのは全く想像つかなくて、全体が一つの決まった評価で出すのかなと思っけていたんですけど、そうではなくて、一人一人の委員の指摘であるとか、いろいろな評価の理由その他を丁寧に送ったまま載せていただいたことに感謝いたします。

それで、さっき委員長がおまとめになったように、非常に多角的な、人によって見方が違うのが浮き彫りになっていますし、それから、外部評価委員の人たちの発言も、当日もそうでしたけれども、この報告書でも非常に丁寧に拾っていただいているので、区民とともに行政をつくっていくことができるんだなということが改めて分かりまして、非常にいい報告書をつくっていただいで感謝しています。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。私からは、報告書の案について1つ申し上げたいのと、あと1つは、実際に評価する中での感想を申し上げたいと思います。

報告書を拝見しまして、報告書のページをめくって、最初の序盤に当たる部分と、あと総評と、どれもとても的確で、内容がすごく充実しているなという印象を受けました。ただ文章としてすごく練られているだけではなくて、一つ一つキーワード自体も非常に適切で、的確なまとめをなされているなど大変勉強になりました。

そこで、これはもし可能であればということで御提案させていただきたいんですけども、特に総評の文章、6、7、8ページの文章がレイアウト上の工夫をして、キーワードを読み解きやすいようなデザインが考えられないかなと思いました。

例えば、8ページ目の後段は空いているので、そこに四角にして、大事なこととか今後のための方向性とか、そういうものを箇条書で抜き出すとか、難しいかもしれないんですが、図のような、または箇条書をまとめるような、そういう見せ方もできるのかなと思いました。文章としてとても練られていて完成度が高いので、文章として読んでいただくのが一番いいと思うんですけども、まず、目につくキーワードを少しまとめられるものいいのかなと思いました。これが報告書に関する提案でございます。

感想としましては、ほかの自治体でも似たような評価をさせていただいたことがあります。ただ、今回感じましたのは、江東区さんの事前に頂いた資料も非常に量が多くて、いろんな情報を適切に開示していただいたなという印象を持ちました。その中で評価するのが難しかったのは、評価はSからCに分かれているんですけども、施策とか事業のテーマによっては、目的によっては、状況を改善していくのが難しい事業も幾つかあって、結果として到達としてはまだ至っていないんですけども、今できることはかなりやられていたり、ほかに方法論がまだ、先駆的な事例も含めて見えない中でもかなりご尽力されている事例もあって、それをAとつけるべきなのかBとつけるべきなのかCとつけるべきなのかというところで大分迷いました。

なので、Cという評価で不十分であり改善を要するという項目ではあるんですけども、不十分である背景もしっかり見て評価しなきゃいけないなという感想を持ちました。大変いろいろ考えさせられて、外部評価モニターの方の御意見も参考になりまして、勉強になりました。どうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。今、6ページ、7ページ、8ページのところで、箇条書みたいなのとか、ポンチ絵でもいいのかもしれませんが、8ページの後ろの空白のところに少し要点をまとめたらどうかという御意見をいただきましたけれども、これについては、事務局と相談させていただきたいと思いますので、事務局で負担がなければやっていただいて、負担がありそうだったら、今、コロナとかそういう状況もあるので、このままにさせていただきますけれども、その辺の対応については私に御一任いただければと思います。ただ、委員がおっしゃるのは非常に重要な視点ですので、しかも、こういう余白があるのは、私ももったいないと思いますので、何か箇条書のポンチ絵みたいなものをつけるといいかなと思っています。後でまた事務局と相談させていただきたいと思います。貴重なコメント、ありがとうございました。

それから、S、A、B、Cのことにつきましては、先ほど企画課長が御説明いただいたように、6ページの(1)のところですが、たしか、二、三年前の前の外部評価委員会の際に私が表現を考えたんですけど、S、A、B、Cの評点だけで評価するのは難しいんだということを、まずはっきり書きました。だから、結局、Bが多いとかCがあるとかということで、それは駄目なんだということじゃないんですよということですね。ただ、そういう見方があるんだということを理解して、次につなげていけたら良いと。各部署は、みんなそれぞれに真摯に取り組んでいただいているんだと、できるだけポジティブにエンカレッジする。だけど、問題点といいますか、課題はしっかりと伝えていく、こういうことを、この6ページの(1)の「専門の異なる委員6名が」というところから、丸を3つ書いているぐらいまでのところ、あえてこういうふうにしたのは、たしか二、三年前ですけども、そういう意図で書いたつもりでございますので、今、先生がおっしゃっていただいたこと、皆さんがそれぞれの視点で見ていただいたこと、それは決して優劣ではないんだということが区の職員の皆さんに伝われば良いかと思います。それぞれに貴重な御意見、ありがとうございました。

それでは、先ほどのポンチ絵的なもの、箇条書的なものを入れるかどうかについてはお任せいただくとして、全体を通しまして、この外部評価結果報告書については、この場で

御承認いただくということによろしいでしょうか。

すみません、最後に副委員長にまとめていただくつもりが、御承認をいただいた上でコメントをいただこうと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長　それでは、この案を御承認いただいたということで、副委員長、最後に副委員長として少しコメントをいただこうと思いますけれども、全体を通していかがでございますでしょうか。

○副委員長　今回、この報告書が出来上がって、目を通しまして、過去の報告書と比べてみたりいたしましたけれども、だんだんレベルアップしてきて、大変いい報告書ができたのではないかと思います。評価委員の皆様方、御協力、どうもありがとうございました。

評価委員の皆様方からいろいろ御指摘等がありましたので、それについて繰り返すことはいたしませんけれども、先ほど委員長から言われましたS、A、B、Cという、こういう評価方式でありますけれども、例えば、大学の学部運営とか大学運営なんかで、丸だとかバツだとか三角だとかSだとかAだとかBだとかCだとか、便宜的につけなければならぬときが、たくさんございまして、それが名は体を表しているかという、それは必ずしも言えなくて、いつも我々も戸惑っているところです。しかしながら、そのような客観的なものが、例えば、C評価であればC評価なのだというふうに、まず目に見える、飛び込んでくるのが1つ重要なことでありまして、なぜCなのだと思って読んでいただくと、実はこういう理由でCであって、必ずしも実態はCではないんだと分かっていただくことが我々、いいのかなと思っておりますし、Sという評価はずば抜けていることになれば、ずば抜けているというのを明確に指摘することができます。したがって、皆さん方のS、A、B、Cの評価、私もそうでありましたけれども、なかなか苦勞したと思いますが、それはそれなりの意味を持つものだと思いますので、今後もこういう形で続けていくことにそれなりの意義を有すると私は考えております。

それから、今回、フォーマットが変わりましたので、どういうまとめ方をされるのかというのを思いながら読みましたけれども、まず、事務局の皆さんに大変努力していただいたところは明らかに分かります。我々のある程度思い描いているところを形にいただいた、大変よく出来上がっているということで、事務局の皆さん方にも感謝を申し上げたいと思います。

それから、ボリューム的にどのぐらいのものがいいのかということもあろうかと思いま

すけれども、外部評価モニターの方の意見、それから資料等も含めて掲載されておりますので、報告書の内容としても深く十分内容を取り込んだものと考えております。私としては、委員長の努力にまず敬意を表します。そして、副委員長としてなかなかお手伝いできなかった部分がありますけれども、結果よければ全てよしとは申しませんが、大変いい結果が得られたと思っております。

以上、私からの意見です。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、先に御承認をいただいて大変申し訳ございませんでしたけれども、事務局から今後の取扱いについてお願いいたします。

○事務局 それでは、本日、この報告書をまとめていただきましたことを受けまして、行政評価の今後のスケジュールについてお伝えしたいと思います。報告書を踏まえまして、区としての最終評価を9月にまとめまして、各部はそれに基づいて、来年度の予算要求を行ってまいります。来年度予算を含めた行政評価結果につきましては、来年度の第1回の本委員会において事務局より御報告をさせていただければと存じます。また、報告書につきましては、9月に区議会への配付とホームページへの掲載をさせていただく予定です。また、10月の区議会の所管委員会でも報告をさせていただきます。この外部評価委員会は、来年度も今年度と同じように行ってまいりますけれども、施策数が今年度は8施策だったんですけれども、来年度は11施策程度を予定しておりますので、各委員の先生方には1日程度増えると思っております、そのようなスケジュールで今現在、実施を予定しております。

事務局としましては、来年度も引き続き委員の皆様方に外部評価委員をお願いしたいと考えておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。委員の任期3年でしたよね。

○事務局 3年をお願いをしております。

○委員長 だから、今日が最後ではないということですね。

○事務局 はい。

○委員長 委員の皆様方と事務局を含めてのお付き合いは3年間続くということで、むしろ事務局の人のほうが人事異動でいなくなることが多いんですけれども、委員はこのメンバーで3年間続くということでございます。

それでは、本日の議題は、これで終わりなんですけれども、先ほどもコメントいただい

たところですが最後に、委員の先生方から一言ずつ、今年度の活動を通してお感じになられたこと、あるいは来年度以降に向けての提言等々ありましたら、コメントをいただければと思います。

それでは、順番に、そして副委員長で締めたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 評価の仕事をしていただく中で一番感じたのは、ほかの方も同じ意見があると思うんですが、新型コロナウイルス感染症の影響が、行政施策ですとか地域社会の全面にわたって大きく及んでいるということです。それを改めて痛感いたしました。各地域における行政の事業ですとか実行に当たって、相当御苦労されているなということをまず感じました。その中で、特に私は、今回、子供たちに関する施策について見させていただいたんですけれども、そういう中で子供たち自身が、今後、自ら考えて、自ら行動する力を養っていくための方法を、もう一度ここで、いろんな知恵を集めて考えていく機会なのかなと思いました。

江東区は、学びについて非常に熱心でおられますし、スポーツですとか、知、徳、体の3つにわたってさまざまな施策をやっておられることを今回実感いたしました。それがこの新型コロナウイルス感染症によって、かなり影響を受けているところがあるなと思います。そこを、行政評価ということも一つのきっかけとして、改めて区の皆様、地域の皆様、区民の皆様にお考えいただけるようになればいいなと考えながら、私は今回参加させていただいておりました。

今後とも、微力ではございますけれども、お役に立つことがあれば、引き続き努力してまいりたいと思います。今回はどうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員 私の感想なんですけれども、やはり限られた時間の中の質疑応答で、こういう重要な評価をしていかなければいけないということで、非常に難しかったなと感じております。もちろん事前に資料等を見させていただいて、いろいろ質問等も考えていくんですけれども、当然時間もありますので全ての質問ができるわけではありませんし、その中での評価になってしまうのが非常に難しいなと感じました。

繰り返しになるんですけれども、先ほども言いましたとおり、モニターの方の意見がその中で非常に参考になったと思っております。来年もよろしく願いいたします。

○委員長 どうもありがとうございます。いかがでしょうか。

○委員 委員長、副委員長、それから事務局の皆さん、大変お疲れさまでした。私の感想

を一言で言えば、やっぱりこういう区民に近いところで、自治、区政をやっているのは本当に素晴らしいなと思いました。大変なことも多いと思うんですけど、もっと言えば、今の首相官邸の首相以下と山崎区長以下のメンバーが入れ替わったら、もっとすごくいい日本になるんじゃないかな。これ、江東区民の人たちを置き去りにするのかってとんでもないことなんですけど、そのぐらい非常に質が高いと思いました。

そこでの課題というのは大変なわけですけど、今まさに、委員長がおっしゃいましたけど、SDGsとかダイバーシティとかジェンダーとか、今いろいろ言われています。ですけど、それが非常に観念論的で、つるつる走って、何のことやら分からないとなっているのも、この報告書の中にある外部評価モニターの人たちの言葉であるとかアンケートであるということからも受け止められるので、そういうつるつるしたのに引きずられて何とかやっている格好を取る、やっている感を出すというのは政府のお役人だけにしていただいて、区民というか、自治体でやるときは、もうちょっと区民の生活に即したいろいろな施策をいろんな角度から展開できるんじゃないか、そういうキャパシティと可能性はあるんじゃないかということを感じました。

例えば、外部評価モニターの方も言っていますけれども、今、児童虐待とか家庭内暴力が非常に増えています。これは、コロナの影響を強く受けていると思います。それを、今までの防ぐということだけじゃなくて、逆にアンダーコントロールなど、やってしまう親側に対するいろんな講座を展開するとか、いろいろ新しい発想で区民の生活、懸念あるいは心配であるとか、そういうのに即した施策展開を、今まででもやってこられていると思いますけど、さらにやれる余地があるなと感じまして、非常に可能性を感じました。今回はどうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。専門性の話からはそれですが、今回、外部評価ということで委員会の中に入れていただきまして、非常に印象的でよかったと思うのは、事務局の方の会議の開催方法が非常に柔軟だったと、感じております。コロナ禍でしたので、おそらく当初は全てZoomを使うというのは、想定はされていたかもしれないんですけども、そんなに強くはおっしゃってなかったと思っております。

Zoomを使って、オンラインと会場と併用していただくことで、私自身、外部評価モニターの皆さんとの距離感を非常に近く感じまして、会場で座席が決められた中で手を挙げて発言というのもよいとは思いますが、オンラインで外部評価モニターの皆さんと画面上

並んで皆さんの意見を拝聴できたのがよかったかという印象を持ちました。そういう意味では、事務局の皆さん、柔軟に開催方法を変えていただいて、大変ありがたかったです。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。副委員長、お願いいたします。

○副委員長 私からまず、今年度、外部評価委員副委員長の職責を務め上げられたということで、ほっとしております。3年間のうちの1年目ということで、私としましても、どういう形で進行させる、あるいは進行していくのかということに対しての若干の不安はあったんですけども、皆様方と議論させていただく中で、こういう表現はちょっといけないのかもしれないですけども、楽しく審議を進めさせていただけたと思っております。

我々、こういう形で評価委員に選ばれているわけですけども、やはり、どんな委員会等でも、自治体の委員会等でも、住民の方の熱意は非常に熱いものがあります。そして、江東区につきましては、職員の熱意が、他の自治体と比べてという言い方はいけないのかもしれませんが、区民並み、あるいは区民以上に熱いものを感じております。私、まだ江東区の方々と仕事をして実質2回目ということなんですけれども、それは常々感じているところでございます。したがって、来年度以降も、そういう熱意に負けないよう、私どもも仕事を進めさせていただきたいと思っております。

評価という仕事は、なかなか難しい仕事ではありますが、評価があるということが次のステップに進めるということでもあろうかと思しますので、来年度も皆様、どうぞ御協力をよろしくお願い申し上げます。

○委員長 どうもありがとうございました。

私のほうからは特別お伝えすることはなく、先生方のおっしゃったとおりでございます。皆さんがおっしゃいましたように、事務局の支えなしというか、事務局の主体性なしにこういうのはうまくいくはずがないと思います。私も、大学であるとか国の機関など、いろんな評価に関わっておりますが、23区で江東区だけ引き続き長年やらせていただいているのは、やはり区長が本当に外部評価に対して熱意を持っておられるということと、先ほど御挨拶されたのは、決して口先だけではなくて、心底そう思っているところを私は感じております。それから、職員の皆さんたちが本当に熱心に区民のことを考えて、一生懸命やっていると、それが評価の中にも表れています。

長くやっていると、例えば、この前、福祉部長かな、彼は財政課長だったんですね。それで、私たちの質問に対して、いつも何か不服そうな顔をしながら説明してくれていた

んですね。そのときから仲良くなっちゃったんですけれども、彼が今、部長になったりとか、後で御挨拶いただきます押田副区長は当時は部長でおられたりとか、課長さんだった人が部長になったりとか、みんなそうやって、偉くなることだけじゃなくて、私たちと一緒にこういう仕事をした職員の人たちが、どんどん、どんどん活躍されて、江東区のために尽くしておられるというのも非常に素晴らしいことだと思っております。

私自身、去年の7月から、兼務ですけれども、東京家政学院という赤字の法人の理事長をしているんですね。最近よく言うのは、中高大と採っているんですが、赤字なので厳しいんですけれども、学生とか生徒のためとか、そんな格好いいことを言うなど、僕は最近、教職員に言っているんですね。自分がハッピーかどうか、これが大事なんだよ。君たちがハッピーで、先生たちがハッピー、職員がハッピーであれば、必ず学生、生徒はハッピーになる。学生、生徒がハッピーになれば、必ずそれが社会に伝わって、志願者が集まるんだよ。だから、まず、学生、生徒のためとか社会のためとか、そんな難しいことを考えなくていいから、自分が幸せかどうか、自分がやりがいを感じるかどうか。それで、働きがいがあって、働きやすい職場をつくろうということをスローガンに去年の7月から改革を始めまして、大分雰囲気が変わってきているんですが、職員の皆さんは、私たち評価委員のためとか区のためとかいう以前に、御自身なり御家族なりがハッピーか。ハッピーであることを追求していくことが、結果として、巡り巡って区の皆さんの幸せにつながるんだという気持ちでお仕事をされたらいいかな。

そういう意味で、この外部評価委員会というのは、私にとってはとてもハッピーな場。区長をはじめとする区の職員の皆さん、それから区民モニター、区の方々、そして、一緒にお仕事いただいています5人の委員の方々のおかげだと心から感謝しておりまして、また来年、再来年と続くことを楽しみにしております。願わくばコロナが収束してということを実際に願うばかりでございます。ありがとうございました。

それでは、副区長が御出席いただいておりますので、順番として、押田副区長から一言御挨拶いただければと思います。よろしく申し上げます。

○副区長 先生方、このたびの御評価、本当にありがとうございました。先生方のいろんな御意見を今お聞きしておりまして、こんなに温かい方たちに評価委員になっていただいてよかったなど、思っているところでございます。的確でございますし、温かい目で、やり取りをしていただいたなど感じております。それから、今回、8施策でございましたけれども、全体として、子供と教育は力を入れてきて、できてきたけれども、この先どうす

るのか。それから、災害と資源循環もそうですけれども、まさにこれから問われているし、もっとどうするのか。正直、ダイバーシティーは非常に難しい分野でございました。

こういった施策を選んだ中で、2年空きまして3年ぶりの外部評価というところでしたので、非常に楽しみにしておりました。行政評価、特に外部評価につきましても、評価のフォーマットを見ても、進化とは申し上げませんが、この前、冒頭に申し上げましたように、先生方とともに、どういった形がいいのか、どういった評価にしていくのかというところで、今時点でここに至っていて、決してこれが完成形ではないと思ってございますけれども、この中身を拝見しますと、全員の先生方と名前が出てございます各部課長とのやり取りが浮かぶようでございます。

やっぱり一番楽しみにしておりますのは、冒頭の総評でございます。どんな言葉をいただけるのか、残していただけるのかということで、今回も熟読をさせていただきました。計画推進に向けた課題のところでは、社会状況変化と区民ニーズの的確な把握とございますが、今回、私は、コロナ禍を2年近く対応してまいりました中では、区民のニーズが非常にはっきり見える機会をいただけたなと思ってございます。優先順位とか、何を効率的に効果的にということは、言ってられないんですね。判断をした中では、何を先にやらなきゃいけないか、何をしなきゃいけないか、もしくは区民が何を求めているか等については、よりの確な把握をしていく必要があることを御指摘いただいております。

それから、吉武先生が構造化、構造化とおっしゃって、ずっと担当しているときから、この構造化は難しい言葉で何だかなと思っていたんですけども、これが私たちの仕事なんだなと今回も実感をいたしてございます。その上で、戦略性が大事だと。1つのことを片づけるというものの見方ではなくて、そのプロセス、それから、その他の施策や、全庁的にそれがどうつながるかといった物事を体系的に見た中で、戦略もしくはスピード感がないほうがいいのか、あったほうがいいのか、こういったことも考えなきゃいけないんだという御指摘も頂戴しました。

それから、区民への分かりやすい説明ということでは、最後のところにモニターの方の御意見が出てございますけれども、内容が非常に変化していると思ってございます。私どもは、これを見たときに、区民の考え方が多様であったり、またレベル感を感じなければいけないと、今回つくづく思ったところでございます。

その上で、私ども、これからでございまして、この御評価いただいたものを、これからの予算なり計画なりに生かしていくんですけども、実に個々の評価につきましても、なる

ほどというところが多くございます。それから、先ほど委員からもお話にございました、SなのかAなのかCなのかBなのかは、でも、そのとおりだと思うんですね。BはBですし、CはCです。ですから、それは真摯に受け止めた上で、じゃ、なぜなんだと見るのが大事だとおっしゃいましたけれども、Cはやっぱり見ますね。ですから、それは部課長をはじめ職員がこれをよく読むことで、御指摘いただいた内容について自分の中に溶け込ませていくことがとても大事だなということ。これは前から思っていることなんですけれども、それは先ほど委員のお話にもございましたけれども、ダイバーシティとかSDGsとか、もう分かったからということではなくて、それは、今申し上げたように、溶け込んでいく中で、全て施策や事業をやる中で、自然にその視点の中に入ってくるというふうにしていかなければならないということも、今、お話を聞いていて思ったところでございます。

御期待を申し上げたとおりの御評価、それから、先生方の人柄も踏まえまして、良い評価をいただけたなと思ってございます。区政運営は、なかなか難しいところでございます。そうはいっても、区長にいつもお尻をたたかれて、先ほども、この会が始まる前に、考えが足らん、遅い、スピード感がないと言われていて、先生方に区政っていいわよ、頑張っているわと言われると、ほっとしているというのが実感でございまして、やっぱり区政って面白いんです。実に面白い舞台で私どもは仕事ができているんだなということも実感してございます。こうやって先生方に御指摘いただくと、背筋がぴんと伸びるんですね。忘れていたところ、目先のことってなっていることじゃなくて、一つ一つ、これを読んだところで、ここにこう指摘されたかということもちゃんと肝に銘じまして、これからの仕事も、全庁的にみんなとよい仕事、もしくは区民と一緒にというところも実現できればと思いました。

思いついたままべらべらしゃべりましたけど、とてもよいものをいただいたと実感してございます。本当にありがとうございました。

○委員長 副区長、どうもありがとうございました。すごく心温まる押田副区長らしいコメントをいただきまして感謝しております。

大塚副区長、コメントをいただけますでしょうか。よろしく申し上げます。

○副区長 まずもって、今回の外部評価委員の皆さんには、この外部評価におきまして、いろいろと御尽力をいただきありがとうございます。コロナ禍の中で、オンラインでの出席であるとか、いろいろと御苦勞があったかと思えます。そういう中で、今回、8施策に

おける評価をいただきました。内容的には、区民ニーズを踏まえた形で着実に今後も取組を進めていかなければならない施策、あるいは、検討をさらに深度化していかなければいけない施策などあるというような形で読ませていただきました。

細かい話で恐縮ですが、どちらかという私は、SとかAとかではなく、内容を中心に見させていただきました。委員の先生方については、一つ一つ細かく分かりやすくコメントをいただいたのかなと思っています。これをこれから、いかに施策に生かしていくのかというのは、これは私どもの責任であると考えております。

当然ながら、行政だけでこういう施策を進められるものではなくて、やはり区民とともにこの長期計画を進めていくことが大切なことだと思います。今回、総評の中でポイントとなるご指摘をいただいています。例えば具体的な戦略を持って取り組む、区民目線に立って積極的に改善提案をしていく。計画推進に向けた課題では、2年前に策定した長期計画には、当然コロナという部分については、盛り込めておらず、そういう変化する中で、行政も柔軟に的確に区民ニーズを捉えて施策に結びつけていくことが必要だろうと思います。

そういう中で、やはり区民の方にも、区の考えている意図なり内容を分かりやすく伝える。御指摘の中でいくと、やはり双方向のコミュニケーションという形でいただいていますけれども、こういうものは当然ながら非常に大切なことなのかなと思います。区民の皆さんに具体的かつ分かりやすく、この長期計画、あるいはこの施策に説明をする中で進めていかなければならないと思ってございます。外部評価委員の評価、また外部評価モニターも非常に丁寧に分かりやすくコメントを書いていたのかなと思ってございます。こういう意見を今後区政に、また、4年度以降の予算、計画にきちっと反映できるような形で責任を持って対応していかなければいけないのかなと思いますので、今後も引き続きいろんな形で指導あるいはアドバイスをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。本年度、どうもありがとうございました。

○委員長 大塚副区長、どうもありがとうございました。両副区長から、私たち委員に対する励ましの言葉もいただきましたし、また、区としての決意もお話しいただけたと思っております。

本日本日予定されておりました議題はこれで終了いたします。今回、委員の皆様方の御協力で報告書をまとめることができたことに対して、改めて感謝を申し上げます。

それでは、来年度、コロナが収束して対面でお会いできることをお祈りして、第4回の

委員会を終了したいと思います。本当にありがとうございました。最後に事務局に戻しますけれども、いかがでしょうか。何かありますでしょうか。

○事務局 本日は、誠にありがとうございました。貴重な御意見、また、私どもへの身に余る光栄な御評価をいただきまして、ありがとうございました。事務局としましては、Z o o mでやる会議をなかなか区ではやっていなかったものもありまして、先生方には声が聞こえづらいですとか様々な御迷惑をおかけしたかと思えますけれども、この場をお借りしてお詫び申し上げます。また、来年度、ブラッシュアップして柔軟に対処していきたいと思えますので、よろしく申し上げます。

○委員長 どうもありがとうございました。それでは、これで終了したいと思います。それぞれ退室いただければと思います。どうもありがとうございました。

午前11時32分 閉会